

巻頭言

三重県立看護大学は、平成9年4月に三重県で初の四年制公立大学、看護の単科大学として開設して今年20周年を迎えました。公立大学としての使命を果たすために附設機関として開学と同時に設置した地域交流センター（開設時の名称は地域交流研究センター）も大学と同じく設置から20年を迎え、様々な地域貢献活動は三重県公立大学法人評価委員会からも高い評価を得ております。これらの評価は、大学の専門性を活かして地域社会に還元する事業や三重県民の保健・医療・福祉の向上のために本学教職員が公立大学として担うべき役割に取り組んだ数々の事業に評価いただいたものと感謝しております。

平成29年度も三重県立看護大学の第2期中期計画期間の3年目として、多岐にわたる地域貢献活動を行いました。特に、今年度から3年間の予定で開講した認定看護師教育課程「認知症看護」においては、県内外から30名の第1期研修生が9か月にわたる全教育課程を全員が修了し、新たに平成30年度の第2期生30名の入学者が決定しました。さらに本事業は、「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定をされました。平成31年度までの3年間で、本学の教育課程修了者により三重県内の認定看護師「認知症看護」資格者数は全国の上位に達すると思われ、今後は修了生の活躍が期待されます。

看護研究支援では、「看護研究基本ステップ」7日間を遠隔発信で開催し、県内医療施設8施設から延べ449名の参加を得ることが出来ました。さらに「基本ステップ」からの連続的で順序性を意識した「ハウツー看護研究」（13施設27名参加）を看護研究支援の新規事業として取り組みました。県内医療施設の要望に対しては、「施設単位看護研究支援」（5施設37テーマ）、「看護研究発表支援」（5件参加者274名）などを実施致しました。

この他にも、それぞれの教員の専門性を活かした「出前講座」（59件参加者2,738名）、「その他の講師派遣」23件参加者1,073名、「教員提案事業」（14件）、三重県からの受託事業（6件）を展開いたしました。「公開講座」では、第1回は三重県体育協会様、第2回は国立研究開発法人国立長寿医療研究センター様、第3回はNHK厚生文化事業団中部支局様に共催を頂き、各回300～400名と沢山の方々にご参加をいただきました。

平成30年度も地域社会との連携・協働を深め、地域の問題解決に資する創造的な事業や活動の充実を図りながら、地域社会から益々必要とされる地域交流センターを目指したいと考えております。今後も一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成30年3月

地域交流センター長
宮崎つた子